

## はじめに



知事就任以来、CSF(豚熱)や令和元年東日本台風による災害、今も収束が見通せない新型コロナウイルス感染症への対応など、県民の生活に直結する大きな危機に常に直面しており、政治の要諦は危機管理であることを痛感しているところです。

近年、気候変動の影響等により、日本の気象災害は頻発化・激甚化しており、過去に経験したことのない大型の台風や豪雨により、毎年のように全国各地で甚大な被害が発生しています。こうした状況を見ると、日本の気象災害のレベルが高まっていることは間違いありません。

令和元年東日本台風の際には、本県においても県内観測史上最大となる雨量を記録し、水害や土砂災害により、かけがえのない県民の命や財産が失われました。

このため、今後も「同規模の気象災害が毎年のように発生するかもしれない」という危機感から、県民の命と暮らしを守ることが急務だと考え、都道府県としては初となる「群馬・気象災害非常事態宣言」を令和元年12月に発出したところです。

この宣言を踏まえ、震度4以上の地震が関東甲信越地域で最も少なく、また、水害や土砂災害などによる被害が全国で最も少ないレベルにあるという本県の強みを活かしつつ、頻発化・激甚化する気象災害の新たな脅威にしっかりと対応できる「災害レジリエンスNo.1」の実現を目指すこととしました。

そのためには、ハードとソフトが一体となった防災・減災対策をこれまで以上に一層加速させる必要があることから、今回、県土整備プランの見直しを行う決断をしました。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、改めて東京一極集中の是正とリスク分散の重要性が認識され、分散型の新しい国の形、暮らし方が求められる中、「他にはない価値を持ち、より安定した地域」が、コロナ後のニューノーマルの世界において勝ち残ると考えております。

本県の災害への強さが優位性となるよう「災害に強く、安定した経済活動が可能な群馬県」の実現を目指し、県民の生活に直結する様々な課題やリスクに対応できる、持続可能で強靱な社会の形成に向けてしっかりと取り組んでまいりますので、県民の皆様により一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年12月

群馬県知事 山本 一太